

白ヒラタケの簡易ハウスを活用した栽培方法

福島県林業研究センター 林産資源部

1 部門名

林業 - 食用きのこ - 栽培方法

2 担当者

内山寛・内海享

3 要旨

ヒラタケの突然変異により得られた新たな白色ヒラタケ菌株((財)福島県きのこ振興センター市販菌)について、シイタケ菌床培養センター等の遊休期の有効活用を図り、中山間地域の振興に寄与するため、農山村地域でも容易に栽培できる簡易ハウスを活用した栽培方法を検討した。

白ヒラタケは2007年11月、2008年4月、7月、8月に2.5kgPP袋を用いて広葉樹おが粉、米糠及びフスマ培地の仕込・植菌を行い、簡易ハウス内の高さ100cm2段の寒冷紗をかけた棚と、温度20℃、湿度70%に設定した恒温恒湿庫内で培養した。2008年6月、10月、11月の3回、簡易ハウス内において発生操作を行い、植菌時期と発生時期について比較検討を行った。

- (1) 4月と7月に植菌した菌床は、異なる培養期間や培養箇所であっても10月発生操作では良好な子実体発生であった。また、4月に植菌し簡易ハウスで培養した菌床の子実体発生は1ヶ月以上に渡り安定的に発生した。
- (2) 梅雨期の6月に発生させることができたのは、11月植菌で恒温恒湿庫培養の菌床であった。

表 - 1 1菌床(2.5kg)当たりの子実体発生量(生重:g)

植菌時期	培養箇所	培養期間	供試菌	発生操作時期(2008年)			発生時期及び発生量(2008年)		
				6月	10月	11月	6月	10月	11月
2007年11月	簡易ハウス	7ヶ月	A	x	-	-	-	843	-
			B	x	-	-	-	831	-
	A		-	-	-	537	-	-	
	B		-	-	-	532	-	-	
2008年4月	簡易ハウス	6ヶ月及び7ヶ月	A	-	-	-	-	774	510
			B	-	-	-	-	637	278
	A		-	-	-	-	760	600	
	B		-	-	-	-	699	618	
2008年7月	簡易ハウス	3ヶ月	A	-	-	-	-	682	-
			B	-	-	-	-	728	-
	A		-	-	-	-	657	-	
	B		-	-	-	-	614	-	
2008年8月	簡易ハウス	3ヶ月	A	-	-	-	-	-	310
			B	-	-	-	-	-	368
	A		-	-	-	-	-	212	
	B		-	-	-	-	-	571	

注 表中の x は発生操作時期に子実体の発生があったもの、x は発生操作時期に子実体の発生がなかったが、その後発生があったもの、- は実施しなかったもの。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県林業研究センター業務報告(2009)